

公開保育における施設関係者評価

日時 令和7年8月20日(水) 午前9時30分～午後12時

場所 社会福祉法人良友会 渋川あゆみこども園

評価者 草津小学校、草津第二小学校、渋川小学校、草津幼稚園、認定こども園草津カトリック幼稚園、信愛幼稚園、若竹幼稚園、草津中央おひさまこども園、草津第二保育所、草津くじら保育園、たちばな大路こども園、幼児課、教育委員会

内容・ねらい

- 草津中学校区で「育てたい子どもの姿」を共有する機会とする
『もっとやってみよう!やりたいと主体的に考えて行動できる子ども』
- 教育・保育をつなぐことを重視した話し合い
自立心・言葉による伝え合い・思考力の芽生えの観点から子どもの育ちを考える

評価(参加者)

- ・予想もできないことも子どもたちの遊びのなかにはあり、気づいて見つけたことを友達に伝えて共感してもらったり、じっくり遊んだりできる環境を見ていろいろ考えさせてもらった。心が動いて大人に言われてではなく、自分たちが経験して気づくことが大切だと改めて感じた。(小学校)
- ・今日の保育を見て遊ぶ時間がたっぷりあり、じっくり遊べる園と、45分間授業で図工などもっとやりたいという子どもの気持ちをどうしたらいいかと思っている学校との違いがある。来年度から40分授業になるのでますます短い時間での学びを考えていかなければならない。(小学校)
- ・(自園での事例をもとに…)スイカを栽培することで、植物の成長を感じながら、思いがけないことが起きた時に子どもたちとどうしたらいいか話し合っって決めたことで、いろいろ考える場面があった。(幼稚園)
- ・砂遊びや色水遊びなどを通して、どうしたら水を運べるか、どのように樋をつなげば水が通るかなど子どもたち同士で試行錯誤し協力したり考えたりしながら遊んでいる。
子どもたちに保育者が安易に教えるのではなく、声のかけ方のタイミングを難しく感じている。遊びながら驚きや発見をどう拾うかも日々考えている。
環境をきちんと整えると自分で片付けるようになり、道具もいろいろ揃えておくと自分で考えて選び使って遊ぶ姿がみられる。(幼稚園、こども園、保育園) 等

総評(幼児課・教育委員会より)

物的、人的環境が整っていて一人一人の子どもたちへの声のかけ方など安心する環境であった。

子どもが主体になる、子どもがやりたいを大人がどう見取っていくか、それがどう資質・能力につながっていくかを見取っていくことが保育の質の向上につながる。接続カリキュラムの取り組みの中で、小学校と園所が子どもの姿を真ん中に話し合っているこの時間が価値のあることであり、これからも続けていくことが大切である。(幼児課)

園を見てまずワクワクがつまっていると感じた。それは子どもたちが園に来たら朝泣いていても楽しみなことがある、ねがいやワクワクがこもった掲示物やねがいワクワクを叶えてくれる保育者や友達がいる場所であると感じた。小学校の学びの中で子どもたちのねがいやワクワクを叶えるにはどうしたらいいか。園と学校とは違うので園と同じようにすることではなく、学習の中でどうしたらいいかを考えていくことや、ねがいやワクワクをあきらめなくなる子どもたちが増えるように叶えられる大人でありたいと思う。(教育委員会)